

所属・資格 哲学科・教授

申請者氏名 飯田 隆

研究課題		日本語と論理学
報告の概要	研究目的 および 研究概要	日本語と論理学とのあいだの関係についてのこれまでの研究の続きとして、主に二つの側面についての研究を行った。ひとつは、日本語において、可算／非可算という区別がどのように実現されているかについての研究であり、もうひとつは、知識や信念といった命題的態度を表現する日本語の特性についての研究である。
	研究の結果	上記の二つの側面についての研究は、同様の研究を行っている海外の研究者の論文とともに、それぞれ、海外で出版される論文集に収録されることとなった。前者は、Routledge から出版予定の論文集に収録予定の論文“Japanese semantics and mass/count distinction”として、後者は Oxford University Press からすでに出版された論文集の論文“Knowledge and belief through the mirror of Japanese”として、すでに発表されたか、あるいは、発表される予定である。
	研究の考察・反省	日本語に可算／非可算の区別が存在するかについてを明らかにすることは、日本語における量化の研究にとって、もっとも基礎的な主題である。この点についてはっきりさせることができたことは、大きな収穫であった。これをベースに、日本語の量化についての研究をさらに進展させることを計画している。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究成果物 Takashi Iida, “Knowledge and belief through the mirror of Japanese” in Masaharu Mizumoto, Stephen Stich and Eric McCreedy (eds.), <i>Epistemology for the Rest of the World</i> , 2018, Oxford University Press, pp. 22-55.
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	